

第62回男子・第35回女子 全日本学生ホッケー選手権大会

開催日時 10月23日(水) 会場 飯能市阿須運動公園ホッケー場

【全試合結果】

天候 曇り

<飯能市阿須運動公園ホッケー場>

第1試合 10:00	女子 3位決定戦	立命館大学	3	{	0	-	0	}	0	聖泉大学
第2試合 11:40	男子 3位決定戦	朝日大学	3	{	2	-	0	}	0	駿河台大学
第3試合 13:20	女子 決勝	山梨学院大学	1	{	1	-	0	}	0	天理大学
第4試合 15:00	男子 決勝	立命館大学	1	{	1	-	0	}	0	天理大学

【各試合の結果・詳細】

阿須・第1試合 女子 3位決定戦

立命館大学	3	$\left\{ \begin{array}{cc} 0 & - & 0 \\ 3 & - & 0 \end{array} \right\}$	0	聖泉大学
		延長戦		
		$\left\{ \begin{array}{c} - \\ - \end{array} \right\}$		
		SO		
		-		

<得点>

立命館 48分・畑野ひかる、65分・一谷奈歩、68分・一谷奈歩
 聖泉

<戦評>

曇り空の下、聖泉のセンターパスにより女子3位決定戦が開始された。序盤から立命館はボール支配率の高さを味方に果敢にゴール前に球を運ぶ。一方聖泉は組織力の高さを見せつけ守備を固める。両チーム共に緊張の糸が張り詰め、必死の攻防戦が続く。立命館#10山内が右サイドからの華麗なドリブルでPCを獲得するも、聖泉のGKに阻まれる。両チーム気迫は衰えぬものの得点にはつながらず後半戦へ突入する。後半開始と同時に立命館は聖泉陣地へドリブルで持ち込む。後半に入り聖泉の試合支配率が高まる中、試合が動いたのは後半13分。PCを攻めきれなかった聖泉は立命館のカウンターを受けGKが止めるも、リバウンドに食いつく立命館#6畑野に今試合初得点を許す。流れに乗り切る立命館を聖泉の総合力で食い止める。しかし、得点を決めた立命館は勢いそのまま、後半30分・33分にPCを獲得しリバウンドに反応する#17一谷により2得点を挙げる。3対0で試合が終了し、立命館の3位が確定した。

TO	関根由美子	アンパイア	松村満
ジャッジ	浅野久雄	リザーブアンパイア	高野光洋
ジャッジ	増田和也	サゼスチョン アンパイア	清水陽子
			我妻順子
			木下英貴

阿須・第2試合 男子 3位決定戦

朝日大学	3	$\left\{ \begin{array}{cc} 2 & - & 0 \\ 1 & - & 0 \end{array} \right\}$	0	駿河台大学
		延長戦		
		$\left\{ \begin{array}{c} - \\ - \end{array} \right\}$		
		SO		
		-		

<得点>

朝日 17分・伊藤大貴、19分・武田拓真、40分・武田拓真
 駿河台

<戦評>

駿河台大学のセンターパスで、男子3位決定戦がスタートした。まず、チャンスを作ったのは、朝日大学であった。開始2分に左サイドから打ち込みを2度行うも、どちらも駿河台大学のDF陣に止められる。その後も、朝日大学のペースで試合が進んでいく。何度かチャンスを作った朝日大学は、ついに17分にサークル前で駿河台大学のパスをカットし、そのチャンスを生かして、左サイドからゴール右下へ#16伊藤がプッシュシュートを決めて先制する。対する駿河台大学も、打ち込みを中心に攻めて、サークル内に打ち込みを何度もするも、触ることが出来ずに得点につなげることが出来ない。前半終了間際、朝日大学はこの試合初のPCを獲得すると、このチャンスを#19武田が左下にフリックシュートを決め、2-0で前半が終了した。後半がスタートすると、試合は、朝日大学ペースで進む。40分に後半初のPCを朝日大学が獲得すると、#19武田がこのチャンスを生かして、3-0とする。その後も朝日大学が試合の主導権を握り、チャンスを作るが、追加点をなかなか挙げる事が出来ない。駿河台大学も打ち込みやスweepでチャンスを作るが得点を挙げる事が出来ない。駿河台大学は68分にこの試合初のPCを獲得するも、GKにファインセーブをされて得点を許さない。そのまま試合が終了し、朝日大学が勝利し、今年のインカレの3位となった。

TO	草野妥彦	アンパイア	西間庭浩
ジャッジ	北島学	リザーブアンパイア	成田健一
ジャッジ	大野隆司	サゼスチョン アンパイア	戸塚洋介
			藤村利道
			石橋徹也

阿須・第3試合 女子 決勝

山梨学院大学

1 { 1 - 0 } 0
0 - 0

天理大学

延長戦

{ - }

SO

-

<得点>

山梨学院 15分・田中泉樹

天理

<戦評>

スタンドを埋め尽くす観客の視線を浴び、寒風を貫くホイッスルの音と共に山梨学院のセンターパスによって開始された女子決勝戦。昨年の決勝と同カードとなったこの試合は、まず天理が先制のチャンスを掴む。前半早々PCを獲得すると、2度のアゲインの末、ついに枠内右隅を捕えたかのように思えたシュートは、山梨学院GK#3勝部の好セーブに阻まれる。闘志を剥き出しにしてぶつかり合う両者は、どちらが流れを掴むでもなく一進一退の熱い攻防を繰り広げるが、得点版に「1」が刻まれたのは前半15分。山梨学院がPCを獲得すると、#1田中がストレートでフリックを突き刺し、先制する。その後も互いに決定的な得点チャンスはなく、1-0山梨学院のリードで前半を折り返す。後半に入ると両チームの卓越したドリブル技術による攻めと、高い組織力で形成されたDF陣が交錯し観客を沸かせるも、得点には至らない。PCの際は、山梨学院GK#3勝部、天理GK#1景山の好判断好セーブが光り、ゴールを死守する。試合終了間際になると、観客席から一層熱い声援が飛び、選手達の動きも懸命さを増してゆくが、互いにゴールネットを揺らすことなく後半戦が終了した。試合終了のホーンは、同時に、山梨学院大学の2年連続6度目の優勝を告げ、熱い戦いの幕を閉じた。

TO	関根由美子	アンパイア	我妻順子
ジャッジ	寺田一夫		LOIJIAJIN
ジャッジ	浅野久雄	リザーブアンパイア	松村満
		サゼスチョン	高野光洋
		アンパイア	石橋徹也

阿須・第4試合 男子 決勝

立命館大学

0 { 1 - 0 } 0
0 - 0

天理大学

延長戦

{ - }

SO

-

<得点>

立命館 3分#9大橋

天理

秋も深まり、迫りくる冬の到来を感じさせるような涼しい風が吹くなか、天理大学のセンターパスにより、今大会を締めくくる熱い試合の火蓋が切って落とされた。開始早々、試合の流れを掴んだのは立命館大学だった。前半3分、立命館はカウンターから天理DFがこぼして浮いた球に、#9大橋が反応しプッシュでゴールに流し込み、幸先良く先制点を挙げて、1-0とする。対する天理大学は、失点するも動揺を感じさせず、MF#11星を中心として安定した攻撃を展開し、好機を窺う。前半28分、立命館大学はカウンターから#8田中がGK1対1に持ち込むも決められない。一方の天理大学も前半32分#23石川がサークル内でシュートを放つもゴール右に外れる。互いに決め手を欠き、1-0のまま前半を終える。後半開始から試合はより一層激しさを増す。しかし両者白熱した攻防を繰り広げるがDF陣の堅い守備により得点を決めるに至らない。後半9分には天理が、後半14分には立命館がPCを獲得し強烈なシュートを放つも両GKの好セーブによりこれも決まらない。このまま終われない天理大学は、後半26分にサークル内で連続してシュートを放つもゴールならず。その後も幾度もPCを獲得し、チャンスを掴むも得点を決められない。後半31分天理のPCを防いだカウンターから立命館もPCを獲得するも、追加点を挙げる事ができない。後半残り3分、得点が欲しい天理大学はフィールドを1人増やしパワープレーをかけるも、立命館の堅い守備は崩すことができず、試合終了を告げるホーンが鳴り響く。結局、立命館大学が1-0で優勝を掴みとり、5日間に渡る熱い闘いに終止符を打った。

TO	草野妥彦	アンパイア	戸塚洋介
ジャッジ	北島学		木下英貴
ジャッジ	大野隆司	リザーブアンパイア	成田健一
		サゼスチョン	西間庭浩
		アンパイア	藤村利道

以上